

この本知ってる？ 中・高生版 H30

ここに紹介した本は、図書館にあります。読みたい本がみつかったら、中央図書館2階ヤングアダルトコーナー、依知北・睦合北・小鮎・荻野・森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館図書室に来てください。

本は、ひとり10冊、2週間借りられます。読みたい本が貸出中のときは、インターネットや電話、窓口で予約してください。上記以外の公民館の事務室で予約図書を受け取ることもできます。

家の近くの公民館をぜひ利用してね！

◆読んでみよう◆



『キャプテン 2 答えより大事なもの』

ちば あきお/原作 山田 明/小説 学研プラス

部員たちの期待に応えるため、^{かげ}陰で努力し続け、^{すみやにちゅう}無名の墨谷二中野球部の意識を変えていったキャプテン谷口。そして、3年生引退の日、谷口が新キャプテンとして指名したのは丸井だった。丸井は強い野球部づくりを目指す、他の部員から不満が出てしまう。谷口にあこがれ、谷口のようになりたいと思うが^{からまわ}空回りする丸井。「俺らしいやり方でいく」と決め、新チーム作りが始まる。それぞれのキャプテンたちの物語。

『がっかり行進曲』 中島 たい子/著

筑摩書房（ちくまプリマー新書）

小学校から中学まで身体が弱くて、「明日は遠足」「明日は運動会」というと必ず^{ぜんそく}喘息の発作が起こる「わたし」。高校生になって体は元気になってきたのに「不登校」になった「わたし」。そんな「がっかり」することばかりだったわたしが、どんな人生を選ぶのか。「がっかりすることは悪くないよ」って、今、がっかりしているあなたに伝えたい1冊です。



『明日のひこうき雲』 八束 澄子/著 ポプラ社

父親は^{たんしんふにん}単身赴任で家にはいない。母親はうつ状態と^{しんだん}診断された。弟のダイは小学生で、まだ母親に^{あま}甘えたい盛り。中学2年生の^{ゆう}遊は、家族の問題を抱えながら ^{ふつう}ごく普通な生活を送っていた。ある日、遊の目にひとりの少年が飛び込んできた。サッカー部の^{きんじょう}金城 哲、通称「キンちゃん」だった。^{こい}恋に落ちた！その日から、遊の生活が変わり始める。勇気をもって一歩^ふ踏み出し、^{こい}恋も、^{きずな}友情も、家族の^{きずな}絆も、真っすぐに見つめる^{ゆう}遊。

『夜間中学へようこそ』 山本 悦子／作 岩崎書店

優菜は4月から中学生です。美容師のお母さんと中学生らしい髪型について話していると、おばあちゃんがポツリと言いました。「私も切ってもらおうかな。4月から学校だから。」子どものころ学校へ行きたくてもいけなかったおばあちゃんは「夜間中学」へ通うことを決めていました。ある日通学途中のおばあちゃんが駅の階段で転んだことがきっかけで、優菜がカバンを持って夜間中学へ送り迎えすることになりました。



『3年7組食物調理科』 須藤 靖貴／著 講談社

ぼくたちのクラスは、新居山総合技術高校の食物調理科だ。通称 ショウチョウ。ふつうの高校とちがうのは、卒業と同時に調理師免許を取ることができることだ。卒業したらプロの料理人になる者もいるため、3年にもなると小梅先生の指導に熱が入る。月に1度、先生方にお弁当を食べてもらう「営業」の集団調理中に、事件が起きた。



『怪盗ルパン謎の旅行者 ルブラン ショートセレクション』

モーリス・ルブラン／作 平岡 敦／訳 ヨシタケ シンスケ／絵 理論社

怪盗ルパン・シリーズの作者ルブランの短編集。「謎の旅行者」では、物語の最初に、ルパンが男に縛られ、財布とかばんを奪われてしまいます。そこで、ルパンが取った行動は、何とルパンが偽名を使って別人を装い、犯人を「ルパン」に仕立てるといふもの。その上、警察まで協力者にし、犯人の追跡を開始。果たして、犯人を捕まえることができるでしょうか。



『ゴーストの騎士』

コルネーリア・フンケ／著 浅見 昇吾／訳 WAVE出版

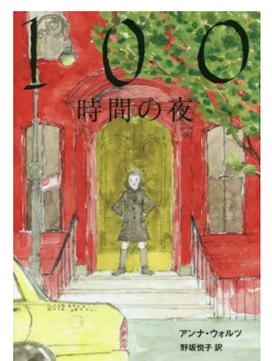
母に古い学校の寄宿舎に入れられたジョンは、そこで馬に乗った三人の騎士の幽霊を見たり、追いかけられたりと、ありえないことが起きておかしくなりそうになっていた。そんな時、エラに、「大聖堂に眠る騎士、ロンジェスピーが助けてくれるかもしれない。」と言われ、ジョンは困惑するが、勇気をだして騎士に会いに行く。



『100時間の夜』

アンナ・ウォルツ／作 野坂 悦子／訳 フレーベル館

エミリアは、父親のネットスキャンダルから逃れ、ひとりアムステルダムからニューヨークへ向かった。巨大ハリケーン上陸後のニューヨークで、3人の少年少女と、大停電の100時間を過ごすことになったエミリア。ネットもつながらず、照明も、暖房も、水もない。「これは冒険なんだ。」エミリアは、この状況を無事に乗りこえることができるのか。



◆調べてみよう・考えてみよう◆

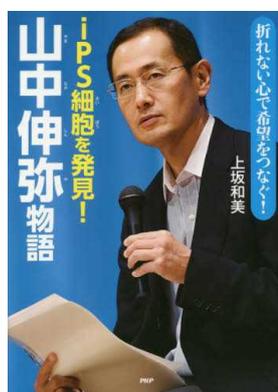
『大人を黙らせるインターネットの歩き方』

小木曾 健／著 筑摩書房（ちくまプリマー新書）

「スマホばかり」「ネットは怖いよ」。わかってない大人に言われてムツとしたことがあるそこのあなた、ちょっとこの本を読んでみて！大人を黙らせる「ひとこと」がいっぱい、ついでに正しい知識も身につichやいますよ！そして「ネットが怖い」のはどのあたりか、正しい怖がり方もわかっていきます！



『i P S細胞を発見！山中伸弥物語 折れない心で希望をつなぐ！』



上坂 和美／著 PHP研究所

山中伸弥さんが、i P S細胞の発見で2012年ノーベル物理学・医学賞を受賞したことは、みなさんご存知ですね。山中さんは、研究者としてはエリートの道を歩んだわけではなく、何度も挫折を味わい、それを乗り越えてきたそうです。好奇心いっばいの子ども時代、家族とのかかわり、医者を目指した学生時代、研究に没頭しながらも失敗の連続、それでも未来の医療を夢見て情熱をもって突き進む山中さんの生き方を、読んでみてください。

『日本と世界の暮らし 衣 どこが同じ？どこがちがう？』

教科書に出てくる「暮らしの中の和と洋」上羽 陽子／監修 汐文社

みなさんが、普段何気なく着ている洋服。日本人が洋服を一般的に着るようになったのは、第二次世界大戦後のことです。一方で和服は、湿気が多い日本の気候に合ったものでした。服や生活用品が、どのように生まれ使われるようになったのか、文化や生活習慣の違いを比較してみましよう。現在のようになるまでには、様々な経緯や歴史があります。



『ガリレオ工房の水のひみつ 変化するすがた』

土井 美香子／文 伊知地 国夫／写真 滝川 洋二／監修 さ・えら書房

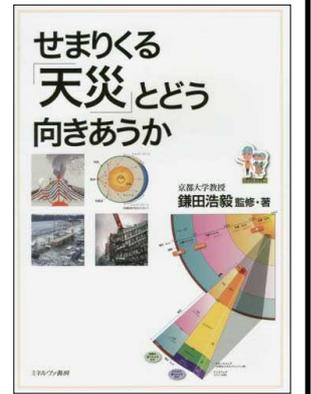
ミルクが落ちて王冠のようになる瞬間や、水が気体や固体になる写真を見たことはあるかな。このような写真は、以前は、専門のカメラでなければ撮れなかった。けれども、カメラの性能が上がったことで、家にあるようなコンパクトデジタルカメラでも撮影できるようになった。三人の高校1年生の課題研究のようすを見てみよう。



『せまりくる「天災」とどう向きあうか』

鎌田 浩毅／監修・著 ミネルヴァ書房

この本によれば、東日本大震災が起こり、「1000年に一度の『天災期』がはじまった」そうです。地震と津波、火山噴火、異常気象のしくみのほかに、命を守るために役立つサバイバルマニュアルが載っています。地震に遭ったとき、自宅で入浴中だったら、外出先でスーパーにいたら、どのように行動すればよいのかを教えてください。



『空を飛ぶ昆虫のひみつ』 星 輝行／写真・文 少年写真新聞社



獣医だった作者が、昆虫写真家に転職し、オリジナル機材を使って撮影した昆虫の飛翔写真は、それぞれの特徴がよくとらえられています。そして、何秒間隔で撮影したのか、はばたき角度・はばたき回数・特徴が昆虫ごとに書かれています。また、昆虫が飛ぶ秘密や体の構造についても、わかりやすく書かれています。

作者が昆虫を追い求め、勉強し、撮影し、完成した一冊です。

『稲と日本人』

甲斐 信枝／さく 佐藤 洋一郎／監修 福音館書店

日本人は、二千数百年前に、水田で作る「水稻」に出会いました。それまでの焼き畑と違い、移動の必要がない水田は日本人の生活を変えました。しかし、水稻と歩んだ歴史は、台風や地震、飢饉などとの闘いの歴史でした。稲と日本人は、生死をともにしてきたのです。力強い絵で、稲の歴史と現在が描かれています。



『学校では教えてくれないゆかいな日本語』 (14歳の世渡り術)

今野 真二／著 丸山 誠司／イラスト 河出書房新社

「ことばはコミュニケーションの道具だ」といわれますが、コミュニケーションのためだけにことばを使っているわけではありません。「イライラ」のような擬態語のふしぎ、怪獣の名前とラ行の関係、五十音図の穴のひみつなど。大昔から日本人が遊んできた日本語の世界をご案内します。



*中央図書館 2階 ヤングアダルトコーナーのご案内

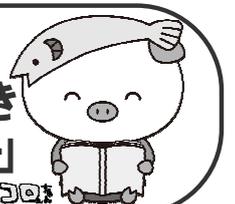
2階の開いている時間 9時から19時まで

お休みの日 しせつほしゅび 施設保守日

年末年始 本の整理のとき ほか

育てよう
「読書大好き
あつぎっ子」

あゆむ回



問い合わせ 厚木市立中央図書館 〒243-0018 厚木市中町 1-1-3 ☎ (046) 223-0033